

|  |
|--|
| 【調査内容】                                   |
| 社団法人 日本経営協会 主催講座                         |
| 「地方議員のためのバランスシート・行政コスト計算書の読み方と活用 入門編」    |
| 講師 関西学院大学専門職大学院教授 稲澤 克祐 博士               |
| 講師は監査法人トーマツの顧問であられるとのことだったので、数字を追いかける会計  |
| 講座を想定して出かけたが、公務員の経験があり、公務員時代にイギリスを中心とした  |
| 欧州各所の政治と会計を2年間学んだとのご経験から、公会計において欠かすことの   |
| できない政策や政治的背景をからめた視点とお金をクリアーに集計する作業の両面から  |
| 解説・ご講義いただいた。                             |
|  |
| プログラムは以下                                 |
| 1. 地方自治体の現状と公会計改革の要請                     |
| 2. バランスシートと行政コスト計算書の作成                   |
| 3. バランスシートと行政コスト計算書の分析                   |
| 4. 連結バランスシート、連結行政コスト計算書の理解と分析            |
| 5. 新しい公表財務諸表の紹介と公会計改革の展望                 |
|  |
| 分析にはまずそれぞれの諸表の成り立ちを理解せねばならない。            |
| 民間の会計原則である「発生主義」と公会計の「現金主義」の違いに違和感を持っていた |
| が、受講により公会計の現金主義の必然性はすっきりしないものがあるが理解できた。  |
| 総務省が指導する会計方式の盲点も解説いただいたので、その部分を踏まえて解析して  |
| いかねばならない。                                |
| バランスシート、行政コスト計算書がそれぞれどのように集計され、どのように連動し  |
| ているのか、いわゆる勘定科目相当部分の説明もふくめ詳細にレクチャーを受けた。   |
| 宝塚市の実際の数値を例にとり、数値分析による暦年推移の見方の詳細な資料を見なが  |
| ら講義がすすんでいったが、メモをとり資料に書き込むのが精一杯で資料に示された   |
| 数値を実際に自分で電卓をたたき検算する作業は宿題となった。            |
| 宝塚市は阪神大震災で被害を受けており復興のためのインフラ整備に多くを要するため  |

震災前と震災後の分析、また震災の影響のなかった自治体との比較なども興味深い。

平成18年の総務省新行革指針で単体・連結とも4種の財務諸表を作成することになっており、4番目の「準資産変動計画書」についてはモデルとして浜松市のものを見ながら解説いただいた。

自治体再生法の説明もあり、どの数値が健全化団体、再建団体の判断基準になるのか具体的にお話いただいた。まとめとして、行政評価や住民の意識調査とお金の使い道を対比して検討すること、そこから次の施策への反映をしていくものであるという論と典型的な比較対象の一覧表をいただいた。

テキストと資料がしっかりボリュームがあるので、講義ではひろいきれなかった詳細をまた読み返して自分のものにしていかねばならない。

#### 【大府市への反映】

現在の大府市は総務省方式で財務諸表が作成されている。一律の基準で作成されるため各自治体の比較がしやすい利点を生かして、知多北部や県の内外の同規模自治体などと比べてどうか、という視点は常に持っていたい。また、大府の独自政策としている部分と費用負担の関係もしっかり見ていきたい。土地・建物といった固定資産については、今後計画的に取得したり建て替えしたりする必要に迫られてくると思われるので、単年度で判断するのが難しいケースも出てくると想定する。今は総じて堅調な大府の財政ではあるが、これから下降の曲がり角にいくことがないよう、しっかりと監視していかねばならない。数字は経営的に赤黒で考える指針であるが、まちの方向性と施策をからめて「市民の税金の使い道」として向き合っていこうと思う。

今後合併についても議論する可能性があるが、講師によると合併した自治体の破綻も予測されているとのことであるから、それらの動向も注意深く見ていく必要がある。